

平成30年度 茨城大学教員免許状更新講習シラバス

【選択】新課題講習4

| | | | |
|-----------------|--|----------|----------------------------|
| クラスCD | ハ-107 | 開講日 | 6月16日(土) |
| 対象職種 | 教諭、養護教諭、栄養教諭 | 定員 | 30名 |
| 講習科目名 | 「今、ここ」から学ぶカウンセリング | 講習の形態 | 講義・演習 |
| 担当講師名(ふりがな) | 正保 春彦 (しょうぼ はるひこ) | 所属 | 大学院教育学研究科 |
| 主な受講対象者 | 全教員 | 担当時間 | 6時間 |
| 講習内容 | <p>カウンセリングにおいて重要な「今、ここ」の感覚を中心に体験的な演習と講義を行います。従来、実感を持って学ぶことが難しかった「今、ここ」の感覚について、即興の技法に基づいて新たに開発されたワークやゲームを中心とした体験法により、単なる講義やロールプレイとは違った形で学ぶことができます。また「エクステンド・アドバンス」の概念を新たに導入し、新しい援助関係のあり方についても提案します。既にカウンセリングについて一定の理解と技能を有する方にとっても、新たな視点でカウンセリングを見直すヒントとなります。</p> | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> 相手の視点に立って、「今、ここ」に即して、他者の話を聞くことの意義を理解し、支援できるようになる。 | | |
| 受講者への 事前連絡事項 | <ul style="list-style-type: none"> 軽い運動を含みます。動きやすい服装でご参加下さい(ハイヒール等不可)。 | | |
| 成績評価の方法 | 筆記試験 | 認定試験に関して | 講習で使用した資料やノートなどの持ち込みを可とする。 |

【選択】新課題講習7

※この講習を受講する方はハ-207、ハ-222、ハ-302を受講することができません。

| | | | |
|-------|--------------|-----|----------|
| クラスCD | ハ-108 | 開講日 | 6月16日(土) |
| 対象職種 | 教諭、養護教諭、栄養教諭 | 定員 | 80名 |

| | | | |
|-------------|--|----------|----------------------------|
| 講習科目名 | 現代子ども論 | 講習の形態 | 講義・演習 |
| 担当講師名(ふりがな) | 生越 達 (おごせ とおる) | 所属 | 大学院教育学研究科 |
| 主な受講対象者 | 全教員 | 担当時間 | 6時間 |
| 講習内容 | <p>『現代子ども論Ⅰ～現代社会と心の育ち』では、なぜ現代の子どもたちが変わったように見えるのか、社会の変化を理解することを通して、子どもたちの問題行動のなかに隠された意味を考えていきたい。『現代子ども論Ⅱ～子どもたちをどう理解するか』では、子どもたちをどのように理解したらよいのか、具体的な事例を取り上げながら考える。子どもや保護者と向き合う際の態度やスタイルを形成することを目指す。</p> <p>(1)教師にとっての共感性とは何か:社会化と共感の狭間を生きる教師 (2)近代社会を支えてきた教師から自由になれるか (3)存在の不安を抱える子どもたち:教師批判やリストカットから見える子どもの自己 (4)子ども理解のスタイルを学ぶ:子どもを理解する際の盲点について知る (5)他者とかかわることが不安な子どもたち:傷つきやすい子どもたち (6)現代のいじめの特徴:いじめの背後にある同調性 (7)自己形成の困難な子どもたち:子どもたちの関係確認と多元的自己 (8)保護者理解の難しさ (9)認定試験:講義した内容を確認する。</p> | | |
| 到達目標 | <p>(1)近代社会を支えてきた教師の役割を知ると同時に、その役割を相対化する眼差しを身につける。 (2)子どもたちの問題行動の裏側に隠された意味を知り、またその意味を捉える子ども理解のスタイルを身につける。 (3)子どもたちの具体的な行動を理解できるようになる。 (4)事例を理解することにより、子どもたちや保護者と向き合う態度やスタイルを形成する。</p> | | |
| 受講者への事前連絡事項 | 適宜プリントを配布します。一部演習方式の授業を含みます。 | | |
| 成績評価の方法 | 筆記試験 | 認定試験に関して | 講習で使用した資料やノートなどの持ち込みを可とする。 |

【選択】新課題講習18

※この講習を受講する方はハ-219を受講することができません。

| | | | |
|-------|-------|-----|----------|
| クラスCD | ハ-109 | 開講日 | 6月16日(土) |
| 対象職種 | 教諭 | 定員 | 30名 |

| | | | |
|-----------------|--|----------|----------------------------|
| 講習科目名 | 特別支援教育における心理・生理アセスメントの活用 | 講習の形態 | 講義 (供覧含む) |
| 担当講師名(ふりがな) | 細川 美由紀 (ほそかわ みゆき) 勝二 博亮 (しょうじ ひろあき) | 所属 | 教育学部 |
| 主な受講対象者 | 特別支援学校教諭 | 担当時間 | 6時間 |
| 講習内容 | 子どもの実態を客観的に把握することは支援計画を立てる上で重要であると思われる。本講義では、特別支援教育の中で用いられる心理計測法(細川担当)、そして感覚等のアセスメントに用いられる生理機能計測法(勝二担当)について紹介し、これらを活用した支援について紹介していく。 | | |
| 到達目標 | 心理および生理機能計測方法とその活用の意義について理解できる。 | | |
| 受講者への 事前連絡事項 | 適宜プリントを配布する。 | | |
| 成績評価の方法 | 筆記試験 | 認定試験に関して | 講習で使用した資料やノートなどの持ち込みを可とする。 |

【選択】新課題講習28

| | | | |
|-------|-------|-----|----------|
| クラスCD | ハ-110 | 開講日 | 6月16日(土) |
| 対象職種 | 教諭 | 定員 | 50名 |

| | | | |
|-------------|---|----------|----------------------------|
| 講習科目名 | 言語教育と言語学 | 講習の形態 | 講義 |
| 担当講師名(ふりがな) | 西山 國雄 (にしやま くにお) 永井 典子 (ながい のりこ) | 所属 | 人文社会科学部 |
| 主な受講対象者 | 小・中・高教諭(国語・英語) | 担当時間 | 6時間 |
| 講習内容 | 日本語と英語の文法について、学校文法とは大きく異なる言語学の分析を紹介することで、現場で文法を教える際の新たな視点を提供する。これは複眼的視点及び異なる意見への寛容性につながる。更に両言語の文法の共通点と相違点にも着目する。母語である日本語に関する知識の多くは無意識なので、母語の運用、及び外国語の習得に様々な影響を及ぼす。本授業では両言語の語彙・文法に関する知識を深めることを目的とする。また、母語が外国語学習に与える影響、及び新たに学んだ外国語が母語に与える影響について考察し、新たな言語教育の方法を考案することを受講者が試みる。 | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 学校で教える文法と言語学的分析の違いを理解する。 2. 日本語と英語の語彙・文法の共通点と相違点について理解する。 3. 母語と外国語が相互に与える影響を理解する。 4. 母語と目標言語の差異に基づき、新たな言語教育の方法を考案することができる。 | | |
| 受講者への事前連絡事項 | 学修指導要領の細かい内容には触れませんが、国語の動詞活用、英語の5文型は簡単におさらいをしてきて下さい。 | | |
| 成績評価の方法 | 筆記試験 | 認定試験に関して | 講習で使用した資料やノートなどの持ち込みを可とする。 |

【選択】新展開講習(国語・書道コース)1

※この講習を受講する方は二-204を受講することができません。

| | | | |
|-------|-------|-----|----------|
| クラスCD | 二-101 | 開講日 | 6月16日(土) |
| 対象職種 | 教諭 | 定員 | 50名 |

| | | | |
|-------------|--|----------|----------------------------|
| 講習科目名AM | 国語科の協働学習 | 講習の形態 | 講義・演習 |
| 担当講師名(ふりがな) | 鈴木 一史 (すずき かずふみ) | 所属 | 教育学部 |
| 主な受講対象者 | 小・中・高教諭(国語) | 担当時間 | 3時間 |
| 講習内容 | <p>①学習指導要領の理念となっている「知識基盤社会」において、社会の変化と学習の質の変化を概観し、国語科で取り組むべき学習について「協働」をキーワードに論じる。</p> <p>②「協働学習」について、具体的な教材をもとに、参加者同士のワークショップ型活動によって理解を深める。</p> | | |
| 到達目標 | <p>①「知識基盤社会」について、どのような社会かを理解し、その社会における教員の役割を把握することができる。また、社会の変化と学習の質の変化について、国語科で取り組むべき学習について「協働」をキーワードに論じられる。</p> <p>②「協働学習」についての実践的体験により、協働学習の有効性について論じることができる。</p> | | |
| 受講者への事前連絡事項 | <p>現在の勤務校の様子を簡単にまとめておいてください。</p> <p>後半のワークの時に、他校種の先生方と交流があり、その時に自己紹介を兼ねてお話をしてもらいます。</p> | | |
| 成績評価の方法 | 筆記試験 | 認定試験に関して | 講習で使用した資料やノートなどの持ち込みを可とする。 |

| | | | |
|-------------|---|----------|----------------------------|
| 講習科目名PM | 書字に関する学習指導を考える | 講習の形態 | 講義・演習 |
| 担当講師名(ふりがな) | 齋木 久美 (さいき くみ) | 所属 | 教育学部 |
| 主な受講対象者 | 小・中・高教諭(国語・書道) | 担当時間 | 3時間 |
| 講習内容 | <p>・新学習指導要領の書写や書道の目標をふまえ、文字を整えて書くことの基礎基本とその習得、書字学習に関する各校種の連携指導について論じます。</p> <p>・小筆を用いた実技を実施し、硬筆と毛筆の関連学習について紹介します。</p> | | |
| 到達目標 | <p>・新学習指導要領における書写や書道の学習目標を確認し、効果的な学習指導を検討することができる。</p> <p>・講習の内容をふまえ、書字学習の授業例を立案できる。</p> | | |
| 受講者への事前連絡事項 | <p>・小筆 * お持ちの方は硯、固形墨</p> | | |
| 成績評価の方法 | 筆記試験 | 認定試験に関して | 講習で使用した資料やノートなどの持ち込みを可とする。 |

【選択】新展開講習(理科・農業コース)2

※この講習を受講する方はニ-215を受講することができません。

| | | | |
|-------|-------|-----|----------|
| クラスCD | ニ-102 | 開講日 | 6月16日(土) |
| 対象職種 | 教諭 | 定員 | 30名 |

| | | | |
|-----------------|--|----------|----------------------------|
| 講習科目名 | 身近な化学:化学と環境と生活など | 講習の形態 | 講義・実験 |
| 担当講師名(ふりがな) | 松川 覚 (まつかわ さとる) | 所属 | 教育学部 |
| 主な受講対象者 | 小・中・高教諭(理科・農業) | 担当時間 | 6時間 |
| 講習内容 | <p>化学について様々な身近な題材をテーマに多彩な演示実験を交えながら学びます。さらに後半では実際に授業に使える実験を行います。</p> <p>1)水溶液について:粒子概念を通じた小中高の内容の関連について 2)水環境について:重金属汚染、COD、富栄養化その仕組みとその対策 3)花火の化学:炎色反応の仕組み、炎色反応のダイナミックな教材についての演示・紹介 4)プラスチックの化学:プラスチックの最新事情、リサイクルについて学ぶ、リサイクルを体験する教材についても演示・紹介する。 5)実験:◎電池分解◎塩化アンモニウムの結晶◎発泡スチロールの再発泡 ◎食塩のダイヤモンドダスト ◎指示薬を使った試験管で虹作り◎ペットボトルリサイクルの体験◎電気爆竹◎試験管のリレー など</p> | | |
| 到達目標 | <p>1. 化学分野において取り扱う内容の小中高のつながりを理解することができる。 2. 身近な化学のトピックスについて理解し、説明することが出来る 3. 化学を身近に感じることの出来る実験を実施できる</p> | | |
| 受講者への 事前連絡事項 | <p>・白衣をご持参ください。 ・テキストは配布します。</p> | | |
| 成績評価の方法 | 筆記試験 | 認定試験に関して | 講習で使用した資料やノートなどの持ち込みを可とする。 |

【選択】新展開講習(保健・保健体育コース)1

| | | | |
|-------|-------|-----|----------|
| クラスCD | 二-103 | 開講日 | 6月16日(土) |
| 対象職種 | 教諭 | 定員 | 30名 |

| | | | |
|-------------|---|----------|----------------------------|
| 講習科目名AM | 柔道の学習指導 | 講習の形態 | 講義 |
| 担当講師名(ふりがな) | 中嶋 哲也 (なかじま てつや) | 所属 | 教育学部 |
| 主な受講対象者 | 全教諭 | 担当時間 | 3時間 |
| 講習内容 | <p>・新学習指導要領では中学校保健体育の必修教材として武道は伝統を学ぶ機会として期待されている。本講習では、柔道の礼法の歴史を概観し、その所作・目的等の変遷を追いながら、武道の伝統にどのような意義があるのかを考える機会にしたい。</p> <p>・新学習指導要領にある「相手の動きに応じる」方法として技そのものではなく、「崩し」という基本動作の視点から把握する。</p> | | |
| 到達目標 | <p>・礼法の歴史を理解すること。</p> <p>・崩しの理が技のどういったところに見られるかを理解できるようになること。</p> | | |
| 受講者への事前連絡事項 | 新学習指導要領の内容を確認しておいてください。 | | |
| 成績評価の方法 | 筆記試験 | 認定試験に関して | 講習で使用した資料やノートなどの持ち込みを可とする。 |

| | | | |
|-------------|---|----------|----------------------------|
| 講習科目名PM | 陸上運動の学習指導 | 講習の形態 | 実技 |
| 担当講師名(ふりがな) | 渡邊 将司 (わたなべ まさし) | 所属 | 教育学部 |
| 主な受講対象者 | 全教諭 | 担当時間 | 3時間 |
| 講習内容 | <p>陸上運動は走・跳・投種目で構成されている。記録との戦いは自己との戦いでもあり、できるようになることや記録が向上することに面白味を感じる運動である。本講習は短距離走、ハードル走、長距離走、走り高跳び、走り幅跳び、投運動の動きのポイントを講義するとともに、授業で活用できそうな視点を紹介する。</p> | | |
| 到達目標 | <p>①良い動きのポイントをおさえ、動きを評価できる。</p> <p>②授業に応用できそうなアイデアを生み出す。</p> | | |
| 受講者への事前連絡事項 | 屋外(陸上グラウンド)での実技なので、運動できる服装で参加してください。 | | |
| 成績評価の方法 | 実技考査 | 認定試験に関して | 講習で使用した資料やノートなどの持ち込みを可とする。 |